

令和5年度 「組織運営自己点検・自己評価結果」の要約

①自校評価（昨年度）

②学校関係者評価委員（昨年度）

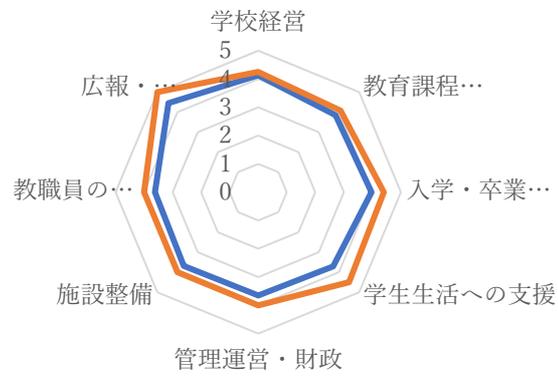
（5段階評価）

大項目	評価	評価および次年度に向けた課題
I 学校経営 (4項目)	① 4.13 (4.0) ② 4.25 (4.0)	令和5年度も、自己点検・自己評価やDP・CPの中間評価、最終評価を重ね軌道修正を行い、重点目標及び計画を実施しながらPDCAサイクルを循環させ学校運営に取り組むことができた。今年度も新・旧カリキュラムを並行実施しながら最終年度の詳細を検討するため各会議に取り組んだ。この取り組みが教職員全体の高い目標意識の維持に繋がったと思われ、今後も自己評価の実施と見直しを重ね、一貫性のある学校運営に取り組んでいきたい。
II 教育課程・教育活動 (13項目)	①3.84 (4.23) ②4.08 (4.36)	<p>教育課程については、教員も学生も新カリで掲げたDPの到達を意識して取り組めるよう工夫した。シラバスへの記載やガイダンス等での活用、学生・教員とも実施しているCP到達の中間・最終評価等によって科目の順序性や関連性の意識付けを促したかった。</p> <p>講義や科目試験、実習などでも既習知識の効果的な連動（統合）を期待しているが、学習は分断され言葉の暗記に留まってしまう傾向があり、アセスメント力や臨床判断能力に繋がる指導方法（アクティブラーニング）を検討している。今後も授業改善委員会やICT充実委員会などの活動を通して取り組んでいきたい。</p> <p>臨地実習については、学生の事故防止や発生時の対応マニュアルなどを再検討し、チャートなどを作成し対応した。守秘義務やプライバシー保護、自身の姿勢などを含めた倫理観の育成については、日ごろの学校生活の中でも看護学生として「看護師の倫理綱領」を軸とした考え方や判断を促している。その結果、今年度の就職1年目の既卒生と支援看護師、3月の卒業生のDP自己評価では、いずれも「思いやる力」の評価点が高かった。日頃の支援の継続が、看護師として身につけられていることに繋がっていた。</p>
III 入学・卒業・就職・進学 (5項目)	① 3.97 (3.6) ② 4.4 (4.0)	卒業生30名、関連病院への就職は90%、助産学科進学者1名、国家試験は100%合格することができた。就職や国家試験への支援は今後も継続し行っていく。入学生の確保については、計画した全ての事を実施した結果、目標とした100名以上の出願者、受験者を得ることができた。推薦入学者は目標とした定員数の60%以上を確保でき、一般入学試験では大学との併願者が多かったが、どうにか定数確保ができた。今後も受験者確保と学生の質の維持は大きな課題だが情報収集しながら積極的に改善していく必要がある。

IV 学生生活 への支援 (4項目)	① 3.71 (4.25) ② 4.5 (4.75)	今年度も経済的支援は高等教育の就学資金制度、教育訓練給付金、関連病院からの就学資金などを活用できる体制を整え、個別の状況に応じた支援を継続して実施できた。健康面については健康診断後のフォローや自己管理などを、健康手帳を用いているが、感染症予防のための計画的なワクチン接種について、実施状況の確認が遅れたため、改善が必要となった。学習支援としては、コミュニティを活用した「学習アドバイス会」「自習を伝える会」などによる学生間での交流や体験の共有機会などを効果的に提供していきたい。サークル活動については昨年度から減少傾向にあるためサークルに限らず学生が主体的に取り組めることに支援を拡大していきたい。
V 管理運営 ・財政 (3項目)	① 3.65 (3.67) ② 4.0 (3.67)	財政基盤については、教育活動に必要な設備や備品を確保し、計画的な予算執行を行った。ICTの充実も進めてきたが、いかに効率的な活用を行うかの検討は次年度以降も継続したい。文書保管のルール作成は行ったが、職員が使いやすい保管方法については今後も改善を続けていく必要がある。また、学生に関する文書等のプライバシー確保のため取り扱いのルール作成が明文化できていなかったので確認する必要がある。
VI 施設設備 (5項目)	① 3.69 (3.6) ② 4.0 (4.4)	津波発生を想定した屋上非難や火災訓練を行っているが、実際に発災した際の危機管理体制、志太広域事務組合との連絡手段など具体的な内容について検討する必要がある。校舎の老朽化については物理的、経済的状況を踏まえてできる範囲内で取り組んでいる。教職員の施設環境としては、他の事項が優先されて改善が進みにくいが、職員の心身の健康に支障が起らないように負担軽減を検討していく必要がある。
VII 教職員の 育成 (4項目)	① 3.62 (4.5) ② 4.0 (4.5)	今年度も教員の研修は全員が計画的に実施できた。口頭での研修報告は一部の報告に留まったが、今後も短時間でも共有化を計り、新たな知識や情報を得るよう意識を高め合っていきたい。教育計画については各自が目標に向かって取り組み、また、CPの取り組みについて各自が中間、最終評価を行ったことが修正の機会となった。その結果CP9項目すべてにおいて評価平均が改善した。次年度は役割の実施状況の見える化を計り意識付けに繋げたい。
VIII 広報・地 域活動 (2項目)	① 4.45 (3.25) ② 5.0 (3.75)	今年度は、コロナ禍の制限が解除されたことで、関係市町からの要請の応え、「出前講座」「福祉のすすめ」なども実施でき地域の方々との交流の機会ができた。学校ホームページや学校説明下記等も意欲的に行え充実して取り組めた。今後も広報活動は入学生確保などにも大きな役割となるため充実させていきたい。

## R5年度自己点検・自己評価結果

— 学内評価 — 外部委員



## 和5年度アセスメントポリシー実施結果

1:目的 本校のDP・CP・APの達成に向けた取り組みと成果を評価し改善につなげる。

2:評価内容・評価結果

1)客観的データ

① 就職率:	96.7%
(第1希望病院への就職者割合)	100%
助産学科への進学	3.3%
② 関連3病院への就職率	90%
③ 国家試験合格率	100%
④ GPA(Grade Point Average)の結果	2.7
⑤ 進路変更等による退学者割合	6.25%

2)主観的データ

⑥ 令和5年度卒業時、看護実践力到達度 自己評価結果			
看護師の実践力 (4段階評価)		平均値	群の平均値
Ⅰ群 ヒューマンケア の基本的能力	A.対象の理解	3.15	3.50
	B.実施する看護についての説明責任	3.43	
	C.倫理的な看護実践	3.82	
	D.援助的関係の形成	3.58	
Ⅱ群 根拠の基づき、 看護を計画的に 実践する能力	E.アセスメント	3.2	3.31
	F.計画	3.32	
	G.実施	3.45	
	H.評価	3.27	
Ⅲ群 健康の保持増 進、疾病予防、 健康回復の関 わる実践能力	I.健康の保持・増進・疾病予防	3.05	3.13
	J.急速に健康状態が変化する対象への看護	3.23	
	K.慢性的な変化にある対象への看護	3.22	
	L.終末期にある対象への看護	3.01	
Ⅳ群 ケア環境とチ ーム体制を理 会し活用する 能力	M.看護専門職の役割	3.17	3.19
	N.看護チームにおける委譲と責務	3.07	
	O.安全なケア環境の確保	3.32	
	P.保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働	3.51	
	Q.地域包括ケアシステムにおける看護の役割	2.89	
Ⅴ群 専門職者 として研鑽し 続ける基本 能力	R.継続的な学習	3.33	3.38
	S.看護の質の改善に向けた活動	3.42	
看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン別表13「卒業時の到達目標」参考 (4段階評価)			

⑦ 令和5年度卒業生3月ディプロマポリシー自己到達評価				
実践する力		平均	項目の平均	
1	感じる力・考える力・伝える力・振り返る力を活用し思考しながら、看護を必要とする人々にとって最適な看護とは何かを創造し、実践につなげている。	4.07	4.1	
2	実践した看護実践を振り返り、更により良い看護を探求する。	4.23		
3	状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化、リスクを判断する。	3.87		
思いやる力				
1	自己を顧みて、ありのままの自分を受け入れる。	4.20	4.3	
2	相手の立場に立って、相手の状況や感情を理解する。	4.43		
責任と役割を果たす力				
1	看護専門職者として、人の生命(いのち)をかけがえのないものとして尊重する。	4.80	4.5	
2	看護専門職者として、あらゆる人の権利を尊重する。	4.73		
3	看護専門職者として、状況に応じて良識のある行動をとる。	4.53		
4	看護専門職者として、自己の力量に応じて判断し、その時の裁量を考えて行動する。	4.00		
地域社会に貢献する力				
1	地域における看護専門職者としての役割を理解する。	4.20	4.1	
2	地域の特性を知り、その地域で暮らす人々の生活に適した健康支援の在り方について考える。	3.97		
3	地域における保険医療福祉チームの一員として情報交換する。	3.80		
4	多職種の機能、役割を理解し尊重する。	4.30		
看護を探求する力				
1	看護を取り巻くあらゆるものに関心を持ち続ける。	4.40	4.4	
2	これまでの学校経験を踏まえて、自己の看護観を明確にする。	4.37		
		平均	4.26	

⑧ 令和5年度 カリキュラムポリシー到達度 学生評価結果 (4段階評価)				
項目	内容	学生	教員	
I	① 看護をエビデンスを持って思考できるよう、形態機能学、病態生理治療論、看護方法の科目を関連付けて配置する	3.2	3.2	
	② 看護実践力を身に付けるために、難易度に応じて段階的に演習、実習を配置する。	3.4	3.2	
	③ 知識と経験を関連付けて思考を深めるようにアクティブラーニングを活用する。	3.3	3.2	
II	他者を思いやる心を育むために、様々な人との交流や活動の機会を作り、自己理解・他者理解を深める支援をしている。	3.2	3.3	
III	① 看護専門職者として倫理観を養うよう、学生間の体験を共有する機会を作る。	3.4	3.0	
	② 看護専門職者としての自覚を育むよう、他者と共同した役割遂行を支援する。	3.3	3.3	
IV	① 地域の人々や暮らしを理解するよう、学習の場を拡大する。	3.4	2.8	
	② 地域で暮らす人々を支援するために、多職種連携教育を取り入れる。	3.5	3.0	
V	安心して学べるように学生の意思や願いを尊重し、個々に応じた支援をする。看護者として、成長していくために自己の経験を積み重ねながら振り返りを元目標達成するように支援する。	3.4	3.4	
		平均	3.3	3.1

- 実施した結果は、年度末に本校ホームページに公表します。
- 実施した結果は、教職員間および関係者に各種会議にて公表し、結果をもとに課題改善に取り組みます。